

すべてのものは主の賜物、私たちは主から受けて主にささげたのです。と言う言葉があるとおり、私たちが自分に与えられている存在の中から主なる神のためにささげるのは大切な務めであります。本日の福音所の箇所には、主なる神の喜ばれるささげもの、わたしたちがささげる時によくわきまえておくべきことが示されており、

まずささげものは、自分のものか自分の意思でなければならないということです。ささげものをするのはよいことですが、他人の意思をささげることは出来ず、まして他人のものを自分のものとして献げることも出来ません。あくまでも自分のものか自分の意思でなければならないのです。主はその人の心を大切にされるのであり、ささげた事実があればそれでよいことにはならないのです。ここが教会の大切なところであり、日常の私たちの社会と違っているところでもあります。

次に大切なのは、金額の多い人がよくて少ない人が悪いということではないということです。福音書に出てきましたように主イエスがお喜びになったのは、たくさん献金をした人ではなく、貧しい一人の女性のささげものでした。主イエスは金額だけが重要なのではなく、自分に与えられている中からどれだけ多くささげたのが大切であり、本当の意味で与えることでなければならないと言われたのでした。ここが大変重要な点であります。

本当の意味でささげるには犠牲が伴います。多い少ないよりも自分自身にとって大切なものの中からもどれだけささげられるかが重要であり、主なる神の喜ばれる業であると言っているのです。主なる神の働きのためのささげものが何の犠牲も伴っておらず、有り余る中からささげられた、あるいは、自分に支障のない範囲でしかないものであったなら、教会の業が真実なものにはならないと言っているのです。

私たちの生きる社会は、自分の喜びのために金銭を使う社会です。また金銭を払うならばそれ相応の楽しみや物質が与えられなければならない、まして自分には何の見返りもないことにささげものをするのは受け入れがたいと考える人が多くいます。しかし、もしこのような考えが教会の中にも入り込み、教会の常識になっていってしまったら、それこそ教会の廃退であり、キリスト教敗

北のしるしになってしまうかもしれません。主イエスはこの女性の話をもって、私たちに自らの姿勢の振り返りを求めておられるのです。

さて、この女性はすべてをささげたと書かれています。これはどういう意味なのでしょう。生活費も何もかもささげなければ主なる神が喜ばれないということではなく、これは象徴的なたとえであります。すべてとは、私たちの生活・持ち物・物質・知恵、主なる神から与えられているすべての存在をささげるべきであると言っているのです。お金だけささげればよい、お祈りだけささげればよい、何かだけささげればよい、このように自分自身のある部分を、主なる神のためにささげないでいつも何かをしまっている、そういうことではなく、主なる神に与えられたすべての存在をもってと言っているのです。

私たちがささげるものは決して多くはないかも知れません。この世的に見ても、また私たちの目から見ても、十分なものではないかも知れません。しかしわたしたちに与えられたすべてを主イエスにささげるならば、それが主から与えられたものであることを私たちがしっかりわきまえるならば、主はそれを用いて、また私たち自身を用いて、私たちの想像を超えたことをなさるのです。あの五つのパンと二匹の魚が五千人の人を養うことが出来たのは、持っていた少年が自分に与えられたすべてをささげたからでありました。私たちも本当の意味で主なる神にささげることを学び、主なる神によって用いられ、自分自身で用いるよりも大きな喜びを実感したいものであります。主よ、どうかわたしたちに正しい心を与えてくださいますように、弱い私たちが、自由な心のもとに導かれることが出来ますように。